

レポーター：学芸員の野島さんです。よろしくお願いします。

学芸員：お願いします。

レポーター：この東亜勸業博覧会って一体どういったものだったんですか。

学芸員：東亜勸業博覧会は福岡市の主催で昭和2年3月から60日間開かれた、展覧会になります。

レポーター：ふうーん、そうなんですね。このおっきなポスターが東亜勸業博覧会のポスターなんですよ。

学芸員：はい。

レポーター：私ですね、ポスターで気になるのが、昭和2年と先ほどおっしゃったのに大正16年て書いてあるんですけど。

学芸員：よく気づかれましてね。これはですね、実は、大正15年の11月にだされたポスターでして、大正15年の12月に大正天皇が亡くなって、それが昭和元年になります。そのため、このポスターが出た時点ではまだ翌年が大正16年だと思われていたんですね。

レポーター：天皇が亡くなっても自粛はしなかったんですね。

学芸員：展覧会があるとかなりたくさん人が来るので、経済効果が見込めるので福岡や博多の商人を中心にして、この展覧会をやろうというそういうような強い意志のもと開催されることになりました。

レポーター：へえー、東亜っていう名前の割に結構西洋的なポスターですよ。

学芸員：はいそうですね、この博覧会ではですね、東亜と名前が付くように、アジアの東アジアの地域と日本国内からいろんな品物を持ち寄ってきて、それを品評するような展覧会でした。

レポーター：えー、品評会だったんですね。その展覧会は何名くらいの方が訪れたんですか。

学芸員：はい、だいたい160万人の来館者がありました。

レポーター：160万人って結構たくさんの方が訪れたんですね。

学芸員：そうですね、当時の福岡市の人口が15万人ほどでしたので、160万人というのは地方で開催された博覧会としてはかなり成功したものだったと思います。

レポーター：実際、どこの会場で行われた展覧会だったんですか。

学芸員：はい、実はこの会場がですね、福岡城の西側で、今でいう大濠公園のあたりになります。

レポーター：へえー、大濠公園で開かれてたんですね。

学芸員：はい、実はこの博覧会のために大濠公園の土地をならして場所を作っておまして、そのあと、大濠公園として公園利用が行われるようになったんです。

レポーター：そうなんですか、私、知らなかったです。博覧会の為に大濠公園が作ら

れてたなんて。

学芸員：あの、こういう福岡の歴史なんかも皆さんに知って頂けると、大変ありがたいと思います。

レポーター：ふうーん。こちらに実際、展示しているものというものはどういったものになるんですか。

学芸員：こちらは当時出品されていた品物を当時の企業さんをお願いして復元したもののになります。

レポーター：どういった特徴があるんでしょうか。

学芸員：ミルクチョコレートがありますよね。

レポーター：んー。

学芸員：これは今でもある森永製菓さんに作ってもらったものなんですけど、当時のパッケージを復刻して作ってもらっています。

レポーター：今とそんなにかわらないですよ、デザインとかはですね。

学芸員：そうですね。国内外の品物を集めて品評会をやる目的としては、貿易関係の問題がありまして、海外の品物と比べて国内の品物が同じくらい優れているというのを見せるということで、国内の品物を売るために品評会を行っていたんですね。

レポーター：そうなんですね。

学芸員：それを示すのが、ここにあります輸入対抗優良国産品というこのはり札です。

レポーター：このはり札をもらえたものは日本国内でもかなり優れているものですよ、ということが証明されているんですね。

学芸員：国内に問わず、海外の品物と変わらないくらい優れているものだから買われたらいいんじゃないか、まあ、そういうような意図が込められていたと思います。

レポーター：ええ、展示を見るだけで、その当時の人たちが使っていたものってのがわかるのでとても面白いですよ。

学芸員：はい、そうですね。

レポーター：ありがとうございました。

学芸員：ありがとうございました。